

2 泊湊の歴史

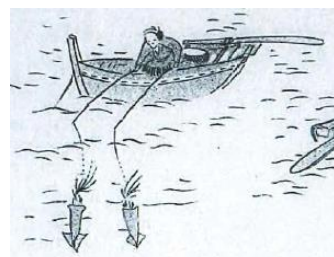
泊地区の漁港は、どのようにしてつくられてきたのでしょうか



1 昔の漁や漁港のようす人々のねがい

【資料1】江戸時代の航海者の虎の巻『日本汐路の記』より

「泊みなとは、ヤマセが吹けば船を出せない
という、おずかしいみなとだった。」



ハネゴを使つてのイカ釣

【資料2】「泊地区 中村三代吉さんの少年時代の話」より 1930(昭和5)年

「イカつり船の出港は夕方、朝までつりばりを
海深くまで(約40m)入れて、つり糸を上下に動か
します。小学校高学年になると、小舟に連れら
れて乗りました。海が急にあれば、白糠港にひなんしたり、6時間かけて
八戸港に向かったりしたこともありました。」



丸木舟でのアワビ漁と磯漁 1960年代

【資料3】 1965(昭和40)年頃の泊漁港とイカ漁のようす



浜で波がおさまるのを待つ船と漁師



人力での船出しのようす



イカ釣りとお揚げのようす



「ヤマセが吹くと、沖に船を出せなかったんだ。」

「手でイカを釣っていた。子どもも漁のお手伝いをしていたんだね。」

2 漁や漁港のうつり変わりと人々のねがい

今と昔の船のちがいをみてみよう

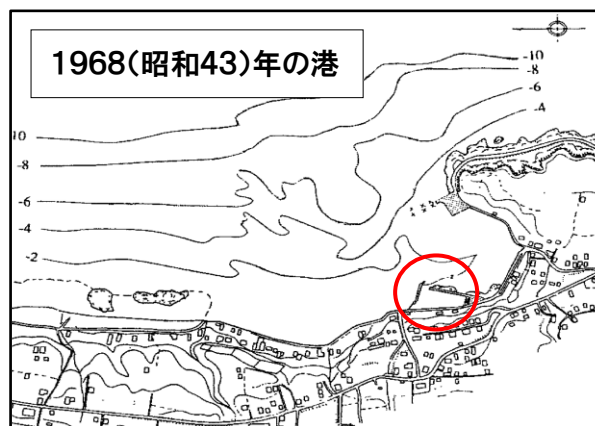


「今はレーダーや電球をつけ、^{きかい}機械がいっぱい。」



「船も大きくなっている。
漁港も大きくなった。」

焼山漁港のうつり変わりを写真や年表で比べてみよう



泊地区漁港の歴史年表 ※太字は、大切な言葉

西 暦	年号	おもなできごと ◇漁業組合 ●国や青森県、村の整備 ・その他
1965	昭和40年	・ ^{きょうふう} 強風と ^{たかしお} 高潮によって、流されたり壊れたりした漁船60隻、壊れた住宅51棟、浸水した家164戸、ケガをした人21人、約19億円をこえる大被害を受ける。
1966	昭和41年	◇泊漁業組合は、青森県に泊の漁港を設備の整った ^{ひなんこう} 避難港にするようお願いする。
1967	昭和42年	●泊漁港南側の ^{ぼうはてい} 防波堤（護岸工事）680mが完成し、さらに南方へ650mのばす。 ●泊漁業協同組合は、焼山漁港に魚を処理し荷造りする「 ^{せんぎょにさばきじょ} 鮮魚荷捌所」を設置。漁船と連絡する ^{たんぱぎょ} 短波漁業無線局を開局。 ^{きゅうじょ} 給油所が完成する。
1969	昭和44年	●焼山漁港と泊漁港が ^{ひなんこう} 避難港（第4種漁港）に指定される。
2002 ～ 2018	平成14年 ～ 平成30年	●国と青森県は、焼山漁港の整備を実施。大きな波を防ぐ ^{おきぼうはてい} 沖防波堤、岸を守る設備の ^{ごがん} 護岸や ^{がんぺき} 岸壁を新しく設ける。大型車が通れる ^{やけやまおほし} 焼山大橋が完成。村は、船を陸にあげる ^{ふたあげば} 船揚場や魚を処理し荷造りする ^{しんにさばきしせつ} 新荷捌施設や ^{せいひょう・ちようひょうしせつ} 製氷・貯氷施設をあらたに建設。

3 これからの泊の漁業

漁港の整備^{せいび}によって、人々のくらしはどのように変わったのでしょうか



泊漁業協同組合 種市四志美氏



泊地区焼山漁港とイカ釣り漁船



泊漁業協同組合と荷捌施設



船から水揚げのようす



人々の願いが、やっと
実現しました！

「泊の漁港は漁場^{ぎょじょう}に近く、イカやイワシ、カツオが獲^とれてたくさんの人が住むようになりました。昔は砂浜の泊漁港を使っていましたが、波が高いと船を出せずにいました。船も大きくなってきたので、1975（昭和 50）年頃から焼山漁港に移動し、1998（平成 10）年頃からは防波堤^{ぼうはてい}や護岸^{ごがん}を整備^{せいび}し、船揚場^{ふなあげば}や新荷捌^{しんにさばき}施設^{しせつ}、製氷^{せいひよう}・貯氷^{ちひよう}施設や道路もできて、新鮮^{しんせん}な魚をより安全に早く出荷^{しゅっか}できるようになりました。おかげで高潮^{たかしお}の被害^{ひがい}も減^へりました。しかし、魚資源^{さかなしげん}の減少^{げんしょう}が問題となっています。」



焼山漁港遠景：遠くに焼山大橋が見える